

2024 年卒学生の職業意識とインターンシップに関する調査

キャリアス就活 2024 会員 2022 年 5 月調査

キャリアス就活 2024 登録学生（2024 年 3 月卒業予定者）を対象に、インターンシップ等のプログラムへの参加意向や、就職に関する意識などを調査・分析した。また、コロナ禍の影響を大きく受けた大学生活についても併せて調査した。

《目次》

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. インターンシップ等への参加意向 | 6. 現時点で興味のある仕事・業界 |
| 2. 参加したいプログラム（種類/形式/時期） | 7. 興味を持ったきっかけ |
| 3. 参加したい内容と期待する成果 | 8. コロナ禍での大学生活 |
| 4. インターンシップ等への参加方針 | 9. 望ましい就職活動の形式 |
| 5. 参加企業を探す手段 | 10. 就職戦線の見方 |

《調査概要》

調査対象 : キャリタス就活 2024 会員
(2024 年 3 月卒業予定の全国の大学 3 年生・大学院修士課程 1 年生)

調査時期 : 2022 年 5 月 18 日～5 月 25 日

調査方法 : インターネット調査法

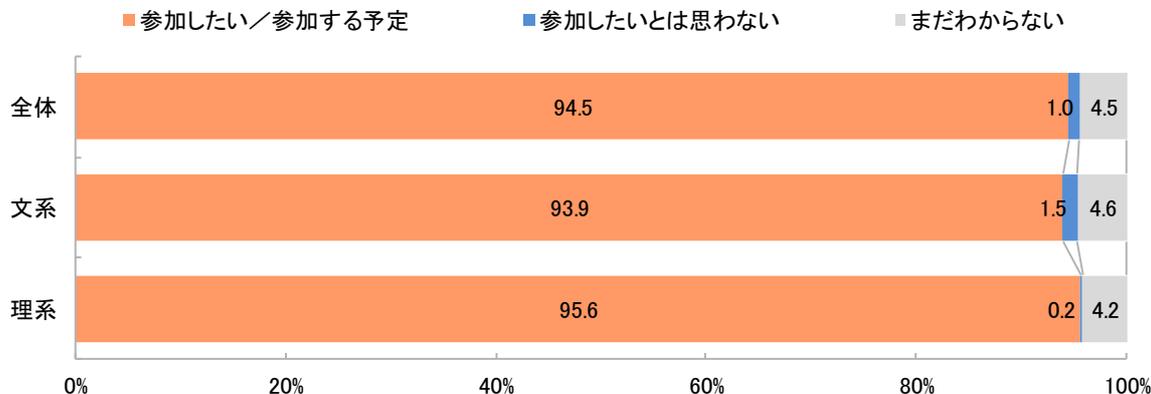
回答者数 : 1,189 人 (文系 757 人、理系・学部生 299 人、理系・大学院生 133 人)

調査機関 : 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

1. インターンシップ等への参加意向

大学 3 年生（修士 1 年生）の 5 月中旬時点での、インターンシップや仕事研究プログラム等への参加意向を尋ねた。「参加したい／参加する予定」が 9 割を超え（94.5%）、参加意欲の高さが顕著に表れている。

＜インターンシップ等への参加意向＞



※ 「インターンシップ」= 就業体験を伴う複数日程のもの
「1Day 仕事研究プログラム」= 就業体験を伴う 1 日以内のもの
「業界研究・会社研究プログラム」= 日数にかかわらず就業体験を伴わないもの

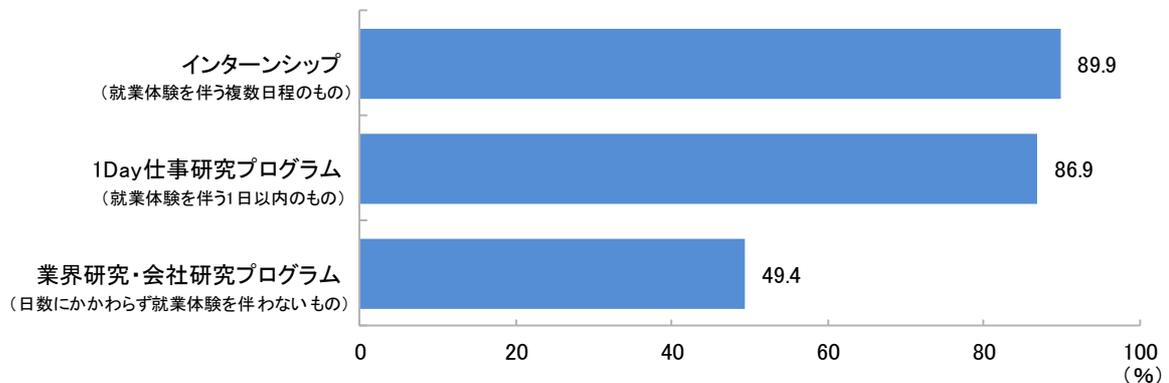
2. 参加したいプログラム（種類/形式/時期）

インターンシップ等に参加意向がある学生（全体の94.5%）に、参加したいプログラムの種類を尋ねた。「インターンシップ」「1Day 仕事研究プログラム」がともに9割近くに上り、就業体験を伴うプログラムを希望する学生が大半だ（それぞれ89.9%、86.9%）。一方、就業体験を伴わない「業界研究・会社研究プログラム」は、半数未満（49.4%）。

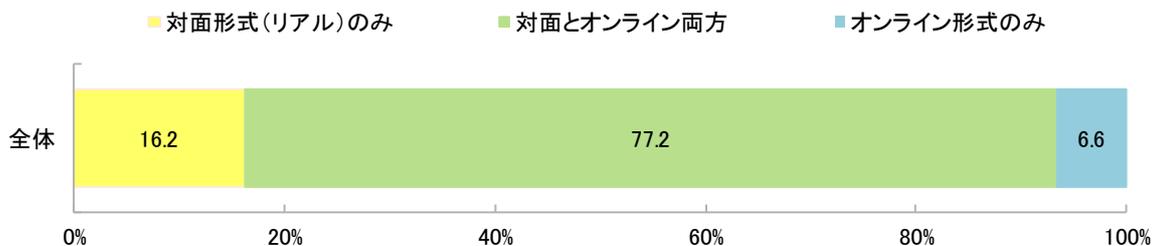
続いて、参加したい形式を尋ねた。「対面とオンライン両方」への参加を希望する学生が8割近くに上る（77.2%）。「オンライン形式のみ」は6.6%とわずかで、大半の学生が対面での参加機会を求めていることがうかがえる。

参加したい時期は、「8月」（95.2%）、「9月」（84.0%）に集中しているのが目立つ。現時点では、夏季休暇中の参加を目指している学生が圧倒的に多いことがわかる。

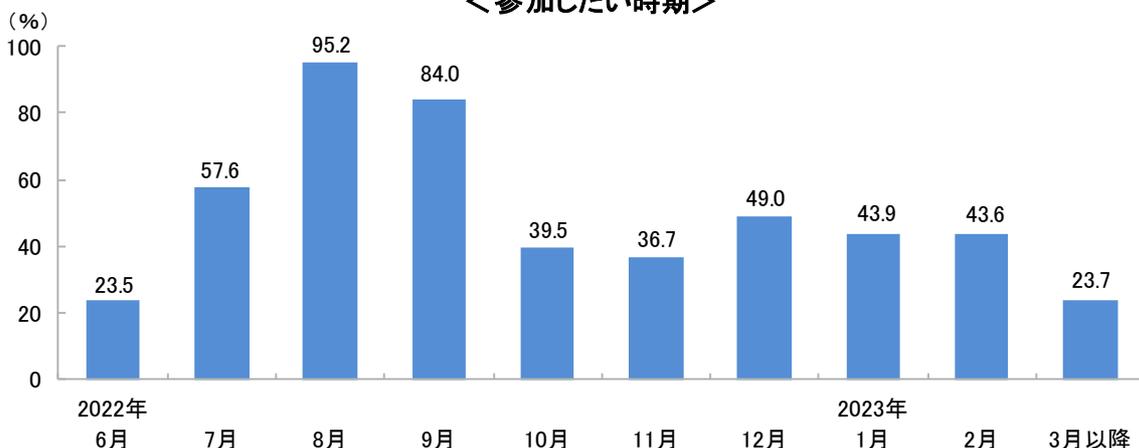
＜参加したいプログラムの種類＞



＜参加したい形式＞



＜参加したい時期＞

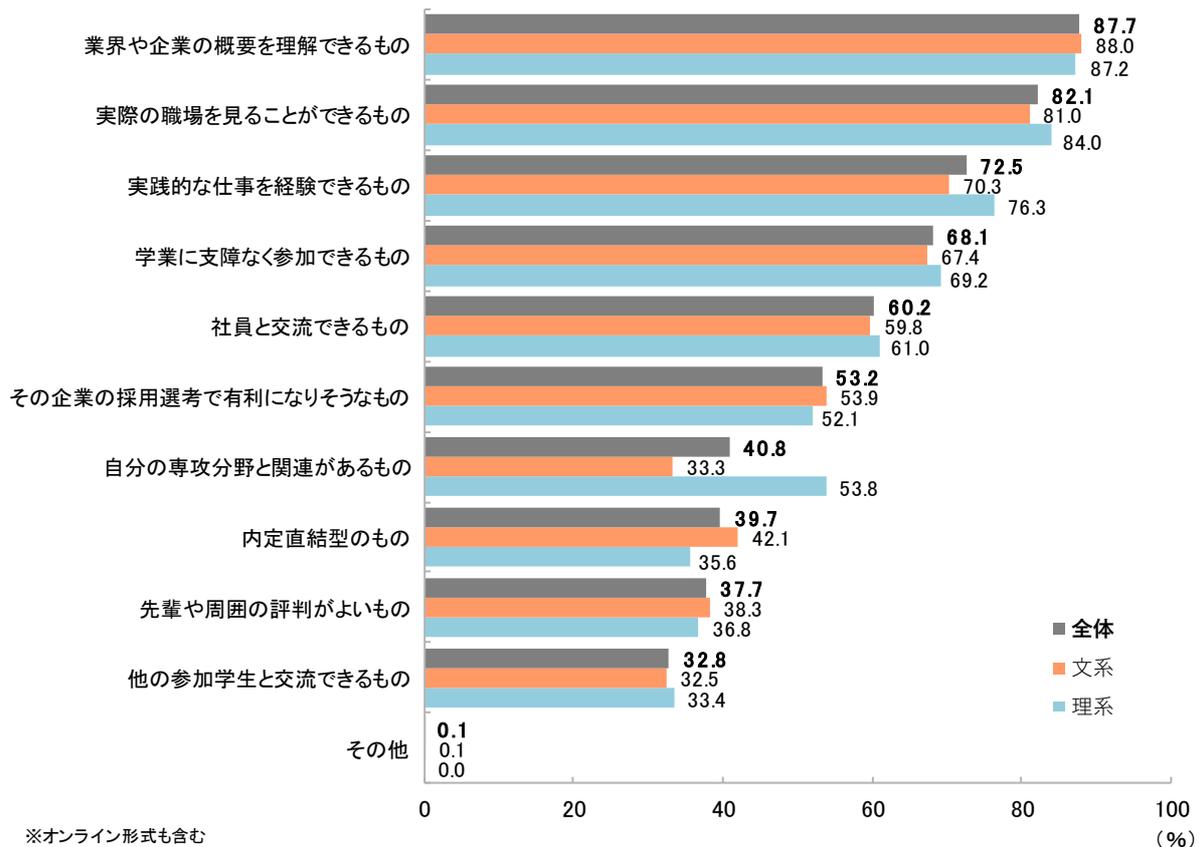


3. 参加したい内容と期待する成果

具体的に参加したいプログラム内容としては、「業界や企業の概要を理解できるもの」が最も多く、8割強に上る(87.7%)。次いで「実際の職場を見ることができるもの」(82.1%)、「実践的な仕事を体験できるもの」(72.5%)が続く。インターンシップ等のプログラムを通じ、業界や仕事内容について理解を深め、就職先の志望を定めたいという学生の考えがうかがえる。

なお、理系は「自分の専攻分野と関連があるもの」が53.8%で、文系に比べ20ポイント以上高い。

<参加したいプログラム内容>



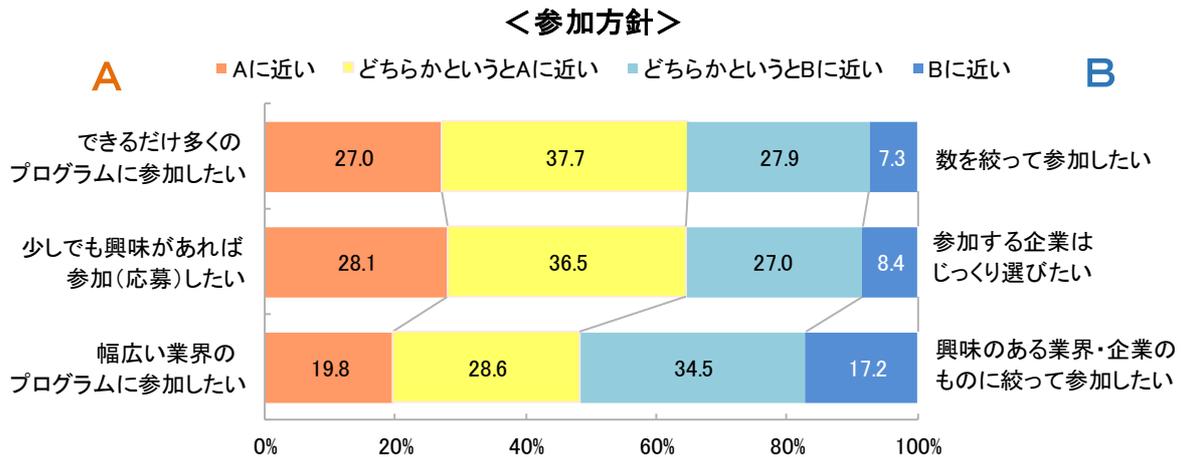
■参加にあたり期待する成果

- さまざまな業界の仕事内容を知り、自分の視野や可能性を広げたい。 <文系男子>
- 企業や業界に対する理解度の向上。学生との交流によるモチベーションアップ。 <文系男子>
- 業界研究に繋がり、自分のスキルアップにもなることを期待します。 <理系男子>
- 社員の方からフィードバックをしてもらうことで、自分のどこを改善すべきかを理解すること。 <文系女子>
- 業界や企業への理解を深め、本選考に役立つ成果を得られることを期待する。 <文系女子>
- 社会に出るにあたっての基本的なスキルから、専門的な知識までを身につけたい。早期選考にもつなげたいと考えている。 <理系女子>
- 企業の雰囲気を感じ取れること。実際の仕事の様子を見ること。 <理系男子>
- 実際の社員や職場の雰囲気が自分の希望するものと合致しているかどうか理解できること。 <理系女子>
- 企業のことをより深く知ることができ、社会で働くということを実感したいと考えています。 <文系男子>
- 企業の方との関係を築くことができること。顔や名前を覚えてもらうこと。 <文系女子>

4. インターンシップ等への参加方針

インターンシップ等への参加方針について3つの指標で尋ねた。まず、参加数については「できるだけ多くのプログラムに参加したい」が6割強に上り(計64.7%)、「数を絞って参加したい」(計35.2%)を大幅に上回った。「少しでも興味があれば参加(応募)したい」も同じく6割強を占める(計64.6%)。

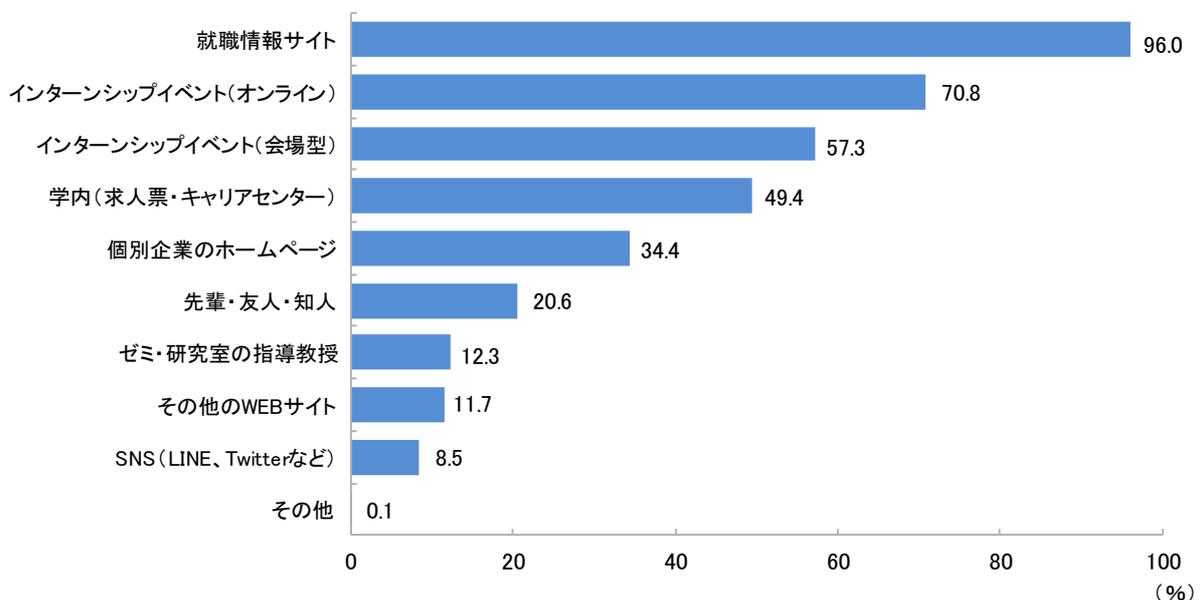
ただし、「幅広い業界のプログラムに参加したい」と「興味のある業界・企業のものに絞って参加したい」は拮抗している。



5. 参加企業を探す手段

参加企業を探す手段について、今後の予定も含めて尋ねたところ、「就職情報サイト」が突出して多かった(96.0%)。続く「インターンシップイベント(オンライン)」は7割が選んだ(70.8%)。一方で、「インターンシップイベント(会場型)」が6割近くに上り、対面での参加を希望する学生も少なくない。「学内(求人票・キャリアセンター)」も半数近くが選ぶなど、様々な手段を活用し、情報収集をしている様子がわかる。

<インターンシップ等の参加企業を探す手段>

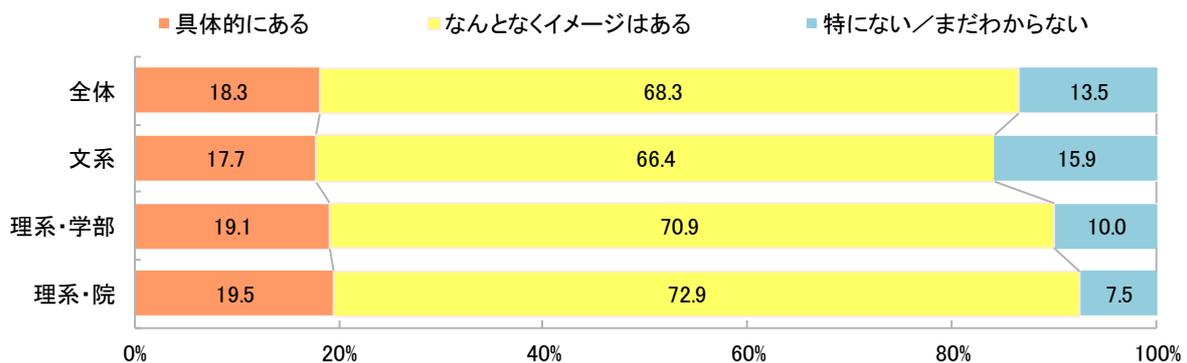


6. 現時点で興味のある仕事・業界

興味のある仕事や、やりたい仕事があるのかを尋ねた。「なんとなくイメージはある」が約7割を占め(68.3%)、「具体的にあり」は2割未満にとどまった(18.3%)。大学3年生(修士1年生)の5月の時点ではやりたい仕事や志望業界が明確になっていない学生が大半であり、これから志望を定めていくためにも、インターンシップ等のプログラムに積極的に参加したいと考えているのだろう。

属性による大きな差はないが、文系は理系に比べ「特になし/まだわからない」の割合がやや高い。

＜現時点で興味のある仕事・やりたい仕事の有無＞



現時点で興味がある、または、働いてみたいと思う業界を、10分類の中から3つまで選んでもらった。文系の1位は「サービス」で、半数強が選んだ(52.7%)。2位「メーカー」(39.6%)、3位「商社」(28.1%)と続き、比較的ポイントが分散している。理系は、学部生・院生ともに1位「メーカー」、2位「IT」の順だが、院生は8割以上が「メーカー」を選んでおり、突出しているのが目立つ(82.1%)。

＜現時点で興味がある・働いてみたいと思う業界＞

全体		文系		理系・学部		理系・院	
1	メーカー 49.0	サービス 52.7	メーカー 56.1	メーカー 82.1			
2	サービス 39.0	メーカー 39.6	IT 37.9	IT 29.3			
3	IT 26.7	商社 28.1	建設・住宅・不動産 19.7	エネルギー 25.2			
4	官公庁・団体 22.1	官公庁・団体 26.5	サービス 19.0	官公庁・団体 13.0			
5	商社 21.7	金融 23.7	官公庁・団体 15.6	サービス 11.4			
6	金融 16.2	IT 21.5	エネルギー 15.2	建設・住宅・不動産 9.8			
7	建設・住宅・不動産 13.6	建設・住宅・不動産 11.8	商社 12.3	商社 8.9			
8	エネルギー 9.8	流通 11.8	流通 5.9	運輸・倉庫 4.1			
9	流通 9.1	運輸・倉庫 7.2	運輸・倉庫 5.2	金融 2.4			
10	運輸・倉庫 6.3	エネルギー 4.6	金融 4.8	流通 2.4			

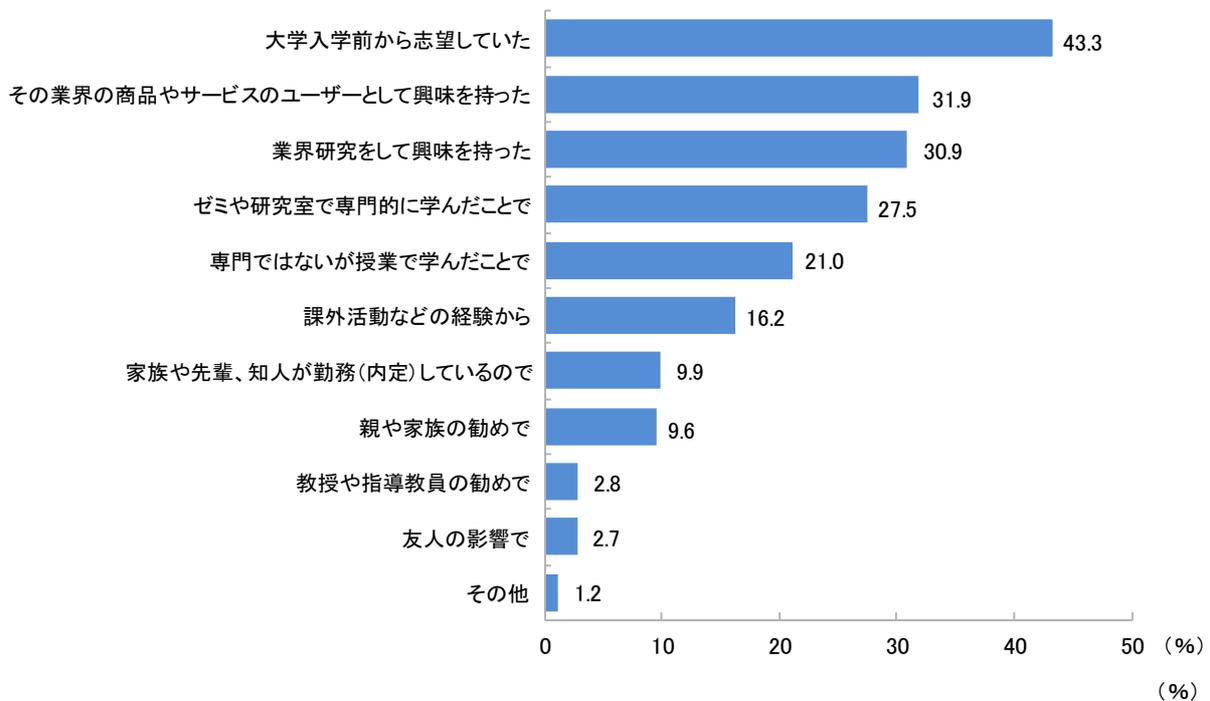
※「サービス」=ホテル・旅行・教育・マスコミ・福祉・フードサービスなど

7. 興味を持ったきっかけ

興味を感じる仕事や働いてみたい業界について、興味を持ったきっかけを尋ねた。最も多いのは「大学入学前から志望していた」で4割強（43.3%）。「商品やサービスのユーザーとして興味を持った」が約3割で続く（31.9%）。これからインターンシップ等への参加や、業界研究を進めていく中で、志望業界や就きたい仕事が変わっていく学生も出てくるものと推測される。一方で、「業界研究をして興味を持った」が僅差で続き（30.9%）、すでに業界研究を始めた学生も見られる。

属性別に見ると、理系・学部生で「大学入学前から志望していた」が半数を超え（53.4%）、就職を見据えた進路選びをしている学生が多いことがうかがえる。理系・院生では「ゼミや研究室で専門的に学んだことで」が約7割に上り（69.1%）、研究分野の専門性を生かした就職を考える学生が多いことがわかる。文系は「ユーザーとして興味を持った」が理系に比べ高い。

<その仕事・業界に興味を持ったきっかけ>



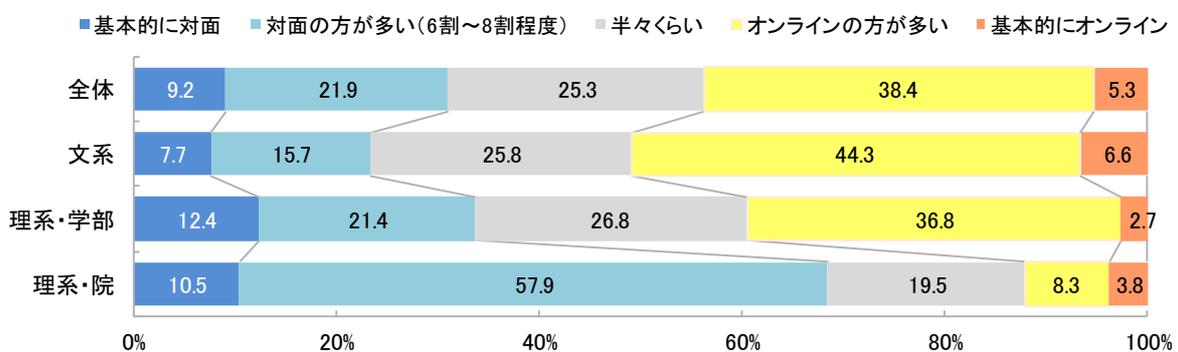
	全体	文系	理系・学部	理系・院
1 大学入学前から志望していた	43.3	40.6	53.4	35.8
2 その業界の商品やサービスのユーザーとして興味を持った	31.9	35.5	26.1	26.0
3 業界研究をして興味を持った	30.9	33.1	25.0	32.5
4 ゼミや研究室で専門的に学んだことで	27.5	20.1	25.7	69.1
5 専門ではないが授業で学んだことで	21.0	20.3	24.6	17.1
6 課外活動などの経験から	16.2	20.0	9.7	11.4
7 家族や先輩、知人が勤務(内定)しているの	9.9	9.7	7.1	17.1
8 親や家族の勧めで	9.6	11.6	7.8	3.3
9 教授や指導教員の勧めで	2.8	3.6	2.2	0.0
10 友人の影響で	2.7	2.7	2.2	4.1
11 その他	1.2	1.6	0.4	0.8

8. コロナ禍での大学生生活

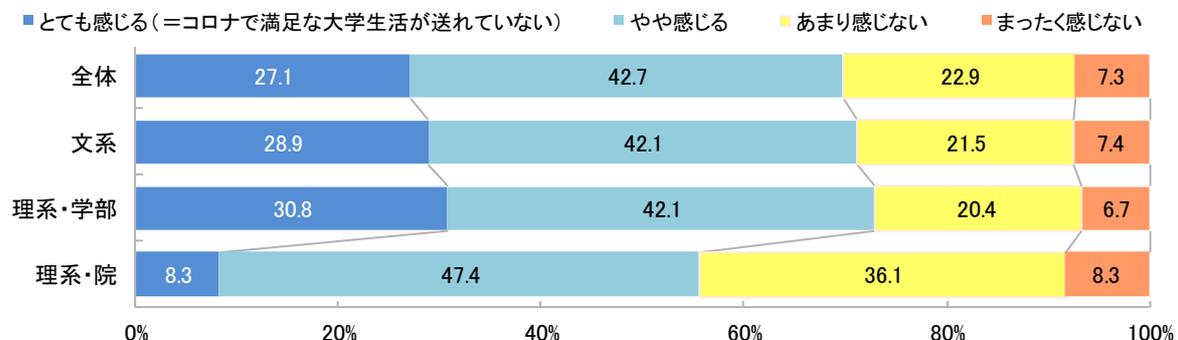
今回調査に回答した3年生は、新型コロナ第1波と入学時期が重なり、様々な制約の下で大学生生活を過ごしてきた。入学からこれまでに履修した授業の形式を尋ねると、対面授業よりも遠隔授業（オンライン）の方が多いと回答した人が、文理とも多数を占めた。理系・院生は、学部2年次まではコロナ禍ではなかったこともあり、対面の方が多。

さらに、コロナ禍の影響で満足な大学生生活が送れていないと感じることがあるかを尋ねた。「とても感じる」(27.1%)、「やや感じる」(42.7%)を合わせると、全体の約7割が「感じる」と回答(計69.8%)。寄せられたコメントを見ると、授業だけでなく、課外活動も入学当初から制約を受けたことで、友人・先輩との交流も少なく、影響が多岐にわたっている様子がうかがえる。

<大学入学後の授業形式>



<コロナ禍で満足な大学生生活を送れていないと感じることはあるか>



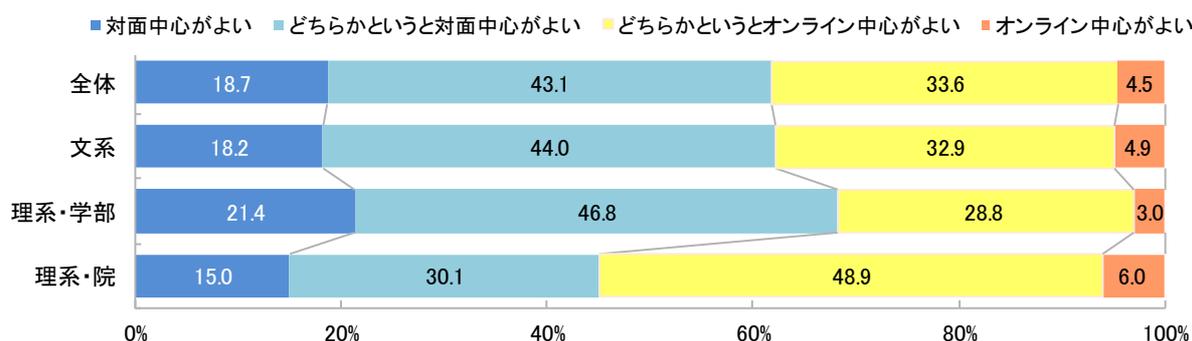
■コロナ禍での大学生生活

- コロナ禍で部活動やサークル活動も禁止だったため、勧誘や見学もなく3年生になってしまった。それによって先輩との繋がりもない。 <理系男子>
- 対面での実施が望ましい実験や実習のある科目についても、オンラインでの授業になることがあった。オンデマンドの授業も多く、授業中気になったことをその場で質問するといったことが難しい。 <文系女子>
- オンライン授業だと友人と話す機会がなく、雑談や議論から生まれる自分以外の考え方や価値観を知る機会が奪われたと感じる。 <文系女子>
- 海外研修が2回予定されていたが、すべて中止となり、まだ1度も学園祭を経験したことがなく、思うようにアルバイトやボランティアもできていない。 <文系女子>
- 学生の時しか行けないような旅行もできず、友達との関係も薄っぺらなものになってしまった。 <理系女子>
- 自分としては、それなりに満足な大学生生活を送っていると思っていたが、先輩の思い出話を聞いた時、自分の大学生生活がこぢんまりとしたものを感じられた。 <文系男子>

9. 望ましい就職活動の形式

この先の、インターンシップをはじめとする就活準備や、セミナー・面接などの就職活動について、対面とオンラインのどちらの形式で進めたいかを尋ねた。「どちらかというに対面中心がよい」が最も多く、4割を超える(43.1%)。「対面中心がよい」(18.7%)と合わせると6割超に上り(計61.8%)。対面の機会を求める学生が多いことがこのデータからも読み取れる。ただし、理系・院生では、「どちらかというオンライン中心がよい」(48.9%)、「オンライン中心がよい」(6.0%)を合わせて5割強(計54.9%)。研究と両立させるためにも、オンライン中心の活動を希望する学生が多いと見られる。

＜望ましい就職活動の形式＞



- 実際に働く際は出社が多いはずだし、対面の方が緊張にも慣れることができると思う。 <文系男子>
- オンラインには慣れたが、人と話す時は、対面が1番自分のことを伝えやすいと感じる。 <理系女子>
- 対面だと雰囲気がわかりやすい。集中できる。 <理系男子>
- 自分の家の通信状況が悪いので、そうした面が影響するのが怖い。 <文系女子>
- 雰囲気を知るには対面が適切だが、会場が遠い場合などには、オンラインも利用したい。 <文系女子>
- 研究などで、特に平日は対面での参加が難しい。 <理系女子>
- オンラインの方が、気軽に様々な企業に触れやすいと思う。 <理系男子>
- 東京などの大都市に行くとなると、まだコロナの状況が気になる。 <文系女子>

10. 就職戦線の見方

自分たちの就職戦線が1学年上の先輩たち(2023年卒者)に比べてどのようになると見ているのか、その見通しを尋ねた。「非常に厳しくなる」(14.6%)、「やや厳しくなる」(40.3%)を合わせると、半数を超える(計54.9%)。「厳しい」の割合は年々減少しているものの、「楽になる」は7.1%にとどまり、厳しい戦線を覚悟する学生が大半だ。

＜就職戦線の見方＞

